

環境(農業濁水・廃プラスチック対策)および農薬の適正使用に配慮した農業に取り組みましょう!!

STOP! 農業濁水



田植えまでの4STEP

①均平作業

- ていねいな均平化で、後の浅水代かきや水管理をしやすいようにする
- 除草剤の効果もアップ



②漏水防止

- 畦周りの点検、補修
- 排水口には止水板を設置



③適量入水で浅水代かき

- 地域で計画的に水管理
- 水を入れすぎず、土が7~8割見える程度に
- 浮いたごみは除去



④落水なしの移植

- やや深くても、回転マーカのラインは見えます



田植えの前に降雨等で深水になっても

田植え直前に落水しない!

●自動直進田植機

GPS 搭載で自動走行。

回転マーカのラインが見えない深水でも落水なしで、田植えが可能です!

導入を検討
してください



[参考] 県のホームページに『農業濁水防止のための管理作業マニュアル(手順書)』などを掲載しています!

<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/ryutsuu/303205.html>

STOP! 農業系廃プラスチック

農業系廃プラスチックは、**産業廃棄物**として『**廃棄物の処理及び清掃に関する法律**』に基づき、**農業者自らの責任で適切に処理する義務**があります!

※不法投棄や野焼きは罰則の対象となります。地域の回収方法を確認しましょう。

プラごみ流出防止

- ◎肥料袋、あぜ波板・シート等は風で飛ばないようにしましょう!
- ◎**緩効性肥料の被膜殻**がほ場から流れ出ないようにしましょう!
 - ・代かきや田植え前に強制落水しないよう水管理をしましょう!
 - ・**浅水代かき**で被膜殻の浮遊・流出を抑えましょう!
 - ・本田を確認し、移植前を中心に網ですくう等、**被膜殻を回収**してください。



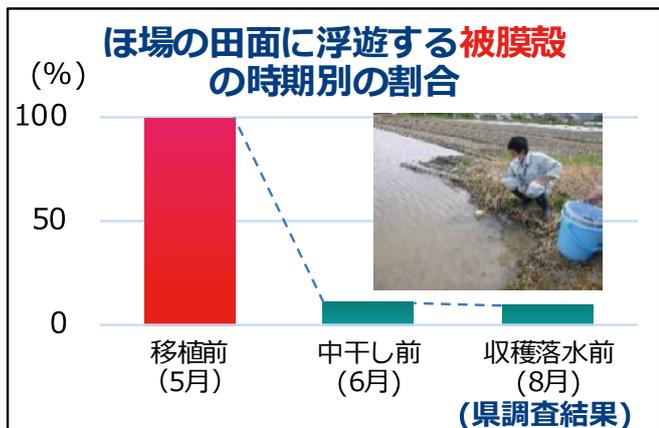
肥料成分が溶出した後



被膜殻が残る



写真: 実際の被膜殻



プラスチック製の被膜殻が発生しない「硫黄コート」や「ウレアホルム」などの代替肥料への切り替えも検討してね。

浅水代かきで被膜殻が田面に浮く量を減らせるよ。



滋賀県イメージキャラクター
うおたん

【参考】農林水産省ホームページに『プラスチック被覆肥料の代替資材・プラスチック被膜殻の流出防止対策に係る事例』が掲載されています!

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/hihuku_hiryo_taisaku-30.pdf

県では、**環境こだわり農業**の推進と

世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策により、地域での濁水防止の取組を支援しています。

また、「**持続的で生産性の高い滋賀の農業推進条例**

(愛称「**しがの農業みらい条例**」) (令和3年4月1日施行)に基づき、農業濁水の流出防止対策および農業系廃プラスチックの排出抑制を強化していきます。

※令和7年度からの環境保全型農業直接支払交付金の「地域特認取組①」では、「プラスチック被覆肥料」が使えなくなります。



環境こだわり農産物認証マーク

農薬は周りに配慮した 使用をお願いします。



農薬散布前に周辺住民の方へ お知らせ下さい。

- ▶ 県内でも、農薬散布前に周辺住民の方へ、農薬散布の日程等のお知らせが不十分だったことで、トラブルが起きている。
- ▶ 農薬散布前に周辺住民へ、必ず、十分な時間的余裕をもって幅広くお知らせをして下さい。

(周辺住民へのお知らせ事項)

- 農薬散布日時
- 散布場所
- 使用農薬の種類
- 農薬使用者等の連絡先 等

クロルピクリン剤（土壌くん蒸剤）は施用後、 ビニール等の被覆が必要です。

- ▶ クロルピクリン剤は、土壌病害虫の防除に重要な農薬です。一方で、刺激性があり、使い方を誤ると農薬を使用する人や周辺住民の方々に被害を及ぼすことがありますので、農薬容器・包装のラベルの記載内容を守り、施用後は必ずビニール等による被覆を行いましょ。

※ 農薬使用者は農薬を安全で
適正に使用する責務があります!

農薬の

飛散防止を 徹底しましょう!



農薬が飛散すると、周辺の作物に付着し、生育障害を起こしたり
基準値を超える農薬が検出される可能性があります。

～周辺の事前チェックと対策～

- ① 周辺の生産者・住民への情報提供
- ② 有機JAS認証ほ場周辺は特に注意
- ③ 農薬ラベルの記載事項の確認



～水田に散布する時の 注意点～



- ① 水田に水もれがないか確認
- ② 水尻をしっかりと止めて散布

～散布時に必ず守ること～



- ① 風が強い時は散布しない
- ② 散布ノズルの向き・種類を確認
- ③ 防護具の着用 (マスク、手袋等)